BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

Measuring Perceived Effects of Drinking an Extract of Basidiomycetes Agaricus blazei Murill: A Survey of Japanese Consumers with Cancer

James A Talcott ✉, **Jack A Clark** ✉and **Insu P Lee** ✉

BMC Complementary and Alternative Medicine 2007, 7:32doi:10.1186/1472-6882-7-32

Published: 29 October 2007

担子菌アガリクス･ブラゼイ･ムリル抽出液飲用により体感された効果の評価

：日本人がん患者に対する調査

James A.Talcotte,M.D.,S.M[1]. Jack A. Clark,Ph.D.[2] and Insu P. Lee[3]

[1]マサチューセッツ総合病院がんセンター効果調査センター
ハーバード大学医学部 (マサチューセッツ州ボストン市)
[2]エディス ノース ロジャース記念退役軍人病院 健康度･予後･経済研究センター
(マサチューセッツ州ベッドフォード市)
ボストン大学公衆衛生学部 (マサチューセッツ州ボストン市)
[3]金沢大学大学院医学系研究科臨床研究補完代替医療学講座 (金沢市、日本)

James A. Talcott, M.D., S.M.

Jack A. Clark, Ph.D.

本研究は 協和―SSI (東京、日本) により援助された。

連絡先：James A.Talcotte,Director,,Center for Outcomes Research, Massachusetts General Hospital,HOI 1-107,Boston,MA 02114 Tel:617-724-5451 Fax:617-724-5457
E-mail: jtalcotte@parters.org

社内研修資料 (複写厳禁)

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

要 約

目 的 ： 担子菌類アガリクス ブラゼイ ムリル茸の抽出液（仙生露®）を摂取しているがん患者において その効果に対する患者自身の評価を調査し、将来の無作為試験で使用する調査票を開発する
方 法 ： 自身でがんと表明している日本の仙生露摂取者 2346 名に、我々が立案し、翻訳した調査票を郵送し、人口統計学的背景因子、がんの病歴、仙生露の使用及びその体感的効果を分析した。体感的効果を総括できる識別可能な多項目尺度を明らかにするため詳細な心理測定解析を行った。
結 果 ： 完全回答を782例（33%）から受け取った。回答者は仙生露を摂取している幅広いがん患者を代表している。ほとんどの例ががんと診断された後に摂取を始めている。これらの摂取者はそれほど強くはないが 一貫して肯定的な見解を表明している。特定の症状の軽減というよりも精神的及び身体的健康感（well-being）のようなより抽象的な有益性を回答している。仙生露の体感的効果を評価することにより、概念的及び経験的に区別でき内的整合性のある二つの総括尺度－症状の軽減と身体機能的健康感（Functional well-being）－を明らかにした（クロンバッハのα信頼係数：症状の軽減、α＝0.74;身体機能的健康感、α＝0.91）。
結 論 ： 仙生露を摂取しているがん患者はその使用による好ましい効果を回答している。我々の調査票は 更に検証されれば 本研究やがん患者の補完代替医療の評価に有用な資材となる。

はじめに

がんの治療を受けている患者や治療を終えた患者に相補･代替医療（CAM）が広く利用されている（1，2）。手術、放射線療法、抗がん剤といった従来のがん治療は腫瘍を標的にしているが、正常臓器に対する副作用が 治療中ないし治療後の患者の QOL を著しく損なうことがある。多くの患者にとって CAM は通常治療の抗がん効果を強化するために求められることもあるし、QOL を損なう治療に関連した症状や他の副作用を減らすために求められることもある。（3－5）。生物学的なエンドポイントとより広い観点から成果（outcome）研究との区別は、がんの治療のどんな評価でも重要であるが（6）、患者があまり限定的でない目的に CAM を利用する場合には特に重要である。しかしながら これらの CAM 製品を使用したときの患者の目標やそれらが実現したかを厳密に調べた研究はほとんどない。我々はがん患者の QOL への効果（outcome）を彼らの観点を正確に反映する方法で調査することは意義深い課題と考えていた（7－9）。 日本の消費者に広く使われている CAM 製品である仙生露の調査を立案するよう要望があり、この課題を実現する機会を得た。

仙生露は担子菌類キノコのアガリクス ブラゼイ ムリルの抽出液であり、安定した抗酸化作用（10）、抗変異原性作用（11，12）、抗腫瘍作用（13－16）、化学発がん予防効果（17）、免疫促進効果（18－19）、がん患者における免疫学的効果を伴った QOL の改善（19）が報告されている。さらに日本の長野県住民 12465 名の研究でキノコ農夫は同県の他の住民に比べがん死亡率が低いことが見出された。仙生露は日本の Kyowa－S.S.I で製造され販売されている。

社内研修資料（複写厳禁）

過去 12 年間に企業の試算では、700 万人ほどのがん患者により購入されている。その消費者に対する会社の以前の調査では QOL の改善が仙生露摂取の大きな理由であることを見出している。我々はがん患者の仙生露の摂取者に対し 人口統計学的及び医学的背景因子、使用のパターン、体感される有益性および仙生露使用の理由を調査する方法を構築した。我々はまた、がん患者の QOL に対する効果を検討する比較臨床試験に使用する患者報告調査票に盛り込む患者の関心がある領域の調査項目について明らかにしたいと考えた。そのような調査票は一度検証されれば、がん患者が抗腫瘍効果以外の目的で摂取する CAM 製品の効果を測定するのに広く利用することが可能である。

方 法

Kyowa－S.S.I のデータベースに登録されている日本の仙生露摂取者 2346 名に簡単な質問票を 2001 年 6 月に郵送した。会社では製品の包装挿入文書として質問票を入れ通常の取引行為を利用して、2000 年に仙生露摂取者の摂取実態と健康状態を調査した。がんと表明した摂取者を今回の調査の適格者とした。英語による調査票案を創案し、それを日本語に訳し、項目定義が保持されているか確認するため再度英訳した。次いで何回か見直しが行われた。前の調査でがんの治療を受けていたり、がんないしがんの治療を緩和するために仙生露を使用していることを示唆した現下の仙生露摂取者に調査票を郵送した。

質問票は37項目あり、人口統計学的背景因子（即ち、性、年齢、婚姻暦）、がんの病歴、仙生露の摂取実態および仙生露の体感的効果を分析した。がんに関する質問には原発腫瘍（すなわち“あなたのがんはどこから始まりましたか”）及び現在の治療－静注化学療法、経口化学療法、放射線療法－の項目が入っている。仙生露の摂取実態は がんの診断と治療に関連していつ始められたか、また使用の期間と摂取量を質問して評価した。仙生露飲用により次の点で助けになっているか 7 つの質問を行った。即ち 身体を強くしがんと闘ったり他の疾患に抵抗できる、がんの症状および治療の副作用を減じる、がんが治癒する、感情的に良好に感じる、がんに精神的に対応できる。最後に動機について2項目で評価した：“医者が行っていること”に関連して、がんと闘うことにおける自分自身の努力の重要性、およびそれを飲むことが“がんと闘うことを助ける”という考えに対する家族の支援。

QOL における特定の効果に対する摂取者の体感は以下の17項目の変化を尋ねて評価した。即ち、仙生露を摂取してから“あなたの身体について、肉体的にどのように感じるか、感情的にどのように感じるか”気づいた変化を質問した。回答は“良好”、“悪化”、“ほぼ同じ”から選択してもらった。これらの項目は 以前の調査、がん患者のケアーの一部として仙生露を使用していた韓国の医師の臨床経験および我々ががん患者の QOL を評価した以前の経験に基づいている。質問項目は治療の副作用、身体機能面、情緒的健康感（emotinal well-being）を幅広く評価できるデザインで並べた。

解析は仙生露使用の QOL に対する体感効果を記述できるように、また患者背景因子および製品の使用法の観点から体感の違いを検討できるように計画した。体感効果のパターンを調べるため17の個々の効果項目を因子分析した。因子分析の結果は次いで、体感効果を総括できる識別可能な多項目尺度を明らかにするために使用された。そのような尺度は、多数の個々の項目の報告に比較して全体的な信頼性を増加させ、摂取者が仙生露使用によるおかげと考える効果の記述を可能にすると思われる。

社内研修資料（複写厳禁）

尺度スコアと患者背景因子および製品の使用状況の関連は相関係数を計算し分散分析を行うことにより評価した。

結 果

がん病歴のある仙生露摂取者標本の内から全部揃った回答は782例（33%）であった。 回答者はがん治療および仙生露を良く知っている幅広いがん患者を代表している。半分強（53.3%）が男性であり、89%が結婚していた。年齢中央値は65歳で、87%は51－80歳であった（範囲は31－91歳）。回答者の多くは単発がんであったが、19%は二つ以上の重複がんであった（表1）。肺がん、大腸がん、胃がんがそれぞれ診断の1／5を占めていた。しかし女性のみないしはほとんど女性に見られるがん（、子宮体がん、子宮頸がん、乳がん）が男性に限定されるがん（前立腺がん）を上回っていた（191例(24%)対75例(10%)）。仙生露摂取者の多くがは現在がんの治療を受けているが、37%は受けていなかった。23%が経口化学療法、放射線療法単独ないし両者併用であり、39%が静注化学療法を受けていた。静注化学療法は通常より毒性が強い。

90%以上が仙生露を3ヶ月以上使用しており、半数以上が1年以上だった（表2）。がんと診断される前から仙生露を使用していた患者はわずか3%であった。約1／3は診断後に、1／3は治療開始後に、残りは治療が終了した後に使用を始めていた。ほとんど全員が仙生露を毎日摂取し、42%が1日1パック以上飲用していた。

今回の摂取者は全般的な有益性に関して、極端ではないが、一貫して肯定的な見解を表明している。62～74%の人が、仙生露はがんと闘うための体力を改善したとか、治療の副作用を軽減したとかいった 様々な面で助けになったとしている（表3）。 がん以外の病気では抵抗性をつけるのに“非常に役立った”としているのは16%に過ぎないが、一方がんに対する精神的闘いに非常に役に立ったとする人は31%いた。仙生露を使用する動機については2つの指標が支持された。医師にのみ頼るだけでは不十分で、仙生露を使用することは個人的な追加努力として重要であると考えることに対して、ほとんどの人（93%）が賛成し、多数（51%）は強く賛成するであった。また がんとの闘いにおいて仙生露が役に立つと家族が考えているかという問いに対し、ほとんどの摂取者（85%）が賛成であった。この経験的信念は家族のほうが摂取者本人より幾分弱いが、拒否した人は実質的にいなかった。

仙生露のプラスの作用とマイナスの作用 17の独立した体感効果項目の因子分析により2つの違った構成要素が示唆された：症状の軽減と身体機能的健康感（functional well-being）である。第一のものは特定の症状の軽減に起因しており、がんおよびその治療のためと思われる副作用（例えば食欲、体重減少、疼痛、嘔気）に付随する項目によって明らかにされた。第二の因子は体力、活力、情緒的健康感（emotinal well-being）の体感によって明らかにされた。次にこれらの2つの項目セットで明らかにされた尺度を 項目尺度の識別と内的整合性を含め、評価し、睡眠と日中の嗜眠に対する効果に付随した二つの項目が区別しがたいことが分かった。即ち,両方の尺度はほとんど相関しており削除された。残りの項目は明確に識別でき、割り当てられた尺度と高く相関し、他の尺度とはほとんど相関していなかった。その結果、仙生露の摂取者のがん治療に関連した効果の体感に関して、概念的経験的に区別でき内的整合性のある二つの総括尺度を明らかにした（クロンバッハのα信頼係数：症状の

社内研修資料（複写厳禁）

軽減、α＝0.74; 身体機能的健康感 (functional well-being)、α＝0.91) (表4)。スコアーは構成成分項目のスコアーを平均することによって計算された。範囲は－1から＋1になり、0 は体感効果が有り、無しのどちらでもないことを示す。

尺度スコアは摂取者が全般的に好ましい効果を報告していることを示している。しかし形式上の回答はいずれにも効果がないことを報告している：ゼロスコアが身体機能的健康感 (functional well-being) および症状の軽減で それぞれ26%、37%であった。仙生露は症状軽減 (平均 0.25、標準偏差 0.36) より全体的健康感 (overall well-being) (平均 0.34、標準偏差 0.46) を促すほうに幾分効果があることが認められた。 最も頻度の高い有益性は全体的な情緒的(精神的) 健康感 (emotinal(spiritual) well-being) (50%)、肉体的健康感(50%)、活力 (44%)、及び体力 (41%) にあり、特定の筋肉の衰えに対する有益な回答はほとんどなかった。少数派であるが30%以上の人が、不安ないし悲しみ、抑うつ、日常活動および他者との社会生活に仙生露が助けになると感じている。通常の治療の副作用を緩和する効果はあまり見られなかったが、1／3以上が食欲や体重維持に関して有益であったと回答している。1／5以上が仙生露は不眠とか痛み、脱毛といった特定の症状の助けになったとしている。

使用したときの体感効果は 性、年齢、腫瘍の部位に関連している。女性および子宮がんの女性は身体機能的健康感 (functional well-being) が良かったと記入していた。しかし症状の軽減は平行した傾向はあったが、統計的に有意ではなかった (表5)。若い患者は身体機能的健康感 (functional well-being) に関してより肯定的効果を回答する傾向があった。しかし症状軽減に関してはなかった。驚いたことに、現に行われている抗がん治療は二つの尺度に影響しなかったが、治療の早期から仙生露を始めた患者は症状の軽減に対しより有益性を回答する傾向にあった。仙生露の毎週の摂取量と体感効果は二つの尺度ともに関連しなかった (データは示してない)。

強力に治療し、予後の良くないがん (肺、胃、肝) の摂取者は あまり強力ではない治療を行ったがん (大腸、乳腺、子宮体部頸部) の摂取者よりも有益性が少ない回答を行う傾向があった。前立腺がんの患者および調査期間中化学療法をまれにしか受けなかった患者では有益性が最も少ない回答であった。

考 察

がんの病歴を表明した仙生露の使用者に対する本調査で、ほとんどの患者はがんと診断された後に使用を始めており、より早期に始めた患者ほど大きな有益性を回答する傾向にあることが分かった。多くの患者は仙生露摂取による有益性を回答しており、仙生露は“大変役に立つ”と感じている人が多かった。患者が製品を選択して現在使用している調査では、有益性を回答する方にバイアスが生じるが、今回の結果でも反映している。しかしながら 本品を好む明らかな傾向があり、その使用による全般的有益性に対して全体的に肯定的な回答をしているにもかかわらず、ほとんどの患者はがんないし治療による特定の症状について質問した時にはいずれの面にも実質的な効果をほとんど回答していない。

本研究でこれらの患者及び調査票に関していくつかの点が明らかになった。17の多少とも特定された効果に焦点を当てた項目の因子分析により、仙生露の有益性体感を特徴付ける 2 つの主要な構

社内研修資料 (複写厳禁)

成要素が示唆された： がんとその治療に付随した症状の軽減及び全身的な身体機能の状態と健康感（well-being）の改善であり、CAM を求めたがん患者の動機を調べた以前の研究とも合致する。他と同様に、我々も症状の軽減よりも身体機能的健康感（functional well-being）の改善が大きいことを見出しており、このことはがん患者は CAM 製品を rather like a health tonic がん治療による衰弱を回復して身体能力を高め、がんと闘う能力を支えるといった強壮効果のために使用していることを示している。今回の結果はこれらの評価尺度を検証するいくつかの追加的エビデンスを示唆している。若い患者、女性、長期摂取者即ち最初のがん治療からの回復に時間がかかる患者および予後が悪くなく積極的な治療をしない患者では 全て一般的に悪い症状は少なく、全体としてより健康であり、二つの評価尺度に有益性があるとする回答を行う傾向がある。これらの結果は病態生理学をよく理解していない患者及び真の状態に対するこれらの評価尺度の感度が乏しい患者と一致する。彼らは良好な状態と感じ、従って悪い状態から脱したいと期待している人よりも有益性を仙生露に帰する可能性がある。前立腺がん患者でも有益性が低い回答が得られているが、全体的健康感（overall well-being） がよく、疾患や治療による症状がはほとんどなく、仙生露から有益性を得る潜在力が少ないことを反映しているものと思われる。ここで仮定した二つの評価尺度は CAM 使用に関連した二つの領域における患者の変化を感度よく表し、将来行われるがん患者に対する CAM 製品の比較試験の評価の手段として役に立つと思われる。

仙生露のようなサプリメントやより広くは代替補完医療の製品を好む人々の特徴的背景要因は以前の研究が役に立つ。北米およびヨーロッパにおけるがん患者およびその他の人々の研究で、女性、高齢者、高学歴者、体重者が低い人および頻繁に運動したり、喫煙を避け、低脂肪で果物や野菜の多い食事をとるような健康的ライフスタイルを示している人たちが、これらのサプリメント等を選ぶ確率がより高かった（20－26）。石原等は、日本での大規模研究において男性の11%、女性の16%がサプリメントをとっており、高齢者、体重者が低い人、頻繁に運動する人の使用が多かったが、同様に長時間労働（男）、ストレスの多い人にも関連していた（26）。がん患者がサプリメントに:お金を払う理由はあるひとつの研究で特徴付けられたように以下の三つの課題を解決したいためである。即ちがんを凌ぐ（がんとの闘いにおいて通常治療を強化する）、がんの症状および治療の副作用を軽減する、身体を解毒したり免疫や活力を高め身体を修復し強化する、そして QOL を増進する（27）。

がん患者の健康の回復と促進というゴールを重要なポイントとしている研究調査がある。オンタリオの乳がん患者において CAM 使用の最も共通する理由は、免疫系を強める（63%）、QOL を高める（53%）、がん再発を防ぐ（43．5%）であった（4）。西ワシントンで行われた SEER コホート研究では、女性（73%）、男性（56%）とも 多くの人は 元々全身的な健康および健康感を改善するためサプリメントを使用していた（28）。しかしながら 比較的少数だが、CAM 使用の理由として症状の治療を挙げていた：オンタリオの調査では21%が通常のがん治療の副作用に対する治療として挙げていたが、在郷軍人病院の患者ではその理由は4%に過ぎなかった(4)。在郷軍人病院におけるがん患者の調査では、61%がサプリメントを摂っており、41%がその理由として“活力増加”を挙げていた(29)。有益性についての質問では、全体的健康改善40%、活力の増加21%の回答であり、症状改善は9%に過ぎなかった。なお MD アンダーソン病院の調査では 化学療法を受けていることが その使用の可能性を倍にしており、使用者の最も共通した因子であることが見出された（30）。ヘダーソン等はがん患者がサプリメントを使用すると決定するのは治療によるより重篤な副作用および自己管理をより強く望むこ

社内研修資料（複写厳禁）

とに関連していると報告している(23)。

症状の軽減とより全体的な有益性との違いは、特定の疾患と戦う医療行為と広く食生活と健康として理解される関係の違いと同調している。例えば食事成分特に脂肪が心疾患のリスクと関連しているという食生活－心臓理論が確立されているように、概念は時に重複している。しかしながら、食生活とがんが関係するという理論は疫学的研究は少なく、米国における肥満の増加の概念は明らかなデータがあるにも拘わらず　ゆっくりと断続的に受け入れられてきた。CAM の使用と健康なライフスタイルおよび高学歴と高い収入レベルをふくめた社会経済的因子の関連性は、食生活が薬としてではなく強壮成分としての広い概念を持っているものとして、高度に経済的に困窮している人を除けば、人々に普及していることを示している。　結果として　仙生露に患者が期待し体感する効果は　例えば特別ながんの診断や治療の強化または最近の投与の方法といった医学的問題に働くものはほとんどない。

この違いは　全般的有益性を得るとともに、特定の症状に抵抗するための両方の目的で摂取する物質を評価するのに役に立つ。例えば、化学療法で誘発される嘔気嘔吐に対する治療は　特定の有害な症状を軽減することにより QOL 上大きな有益性があり、化学療法を受けている患者においてエリスロポイエチンの全般的影響よりも大きい。我々が見出した2つの構成要因は他の研究で明らかにされたCAMの患者目標に対応している。　別の乳がん患者のコホート調査では、CAMの使用は、心理社会学的な苦悩のマーカーであり、CAM　は重篤な疾患の患者ほど使用されることが多くなるので、その苦悩が CAM の利用を動機付ける一部になっている可能性がある(31)。

これらの結果は、CAM 製品の患者に基づく効果の評価方法は　患者が述べるがん“薬効”モデルによって行われるべきでことを意味している。患者の観点に立って患者が価値を置く効果を測定するものであり、医師によるものとは異なるかも知れない。評価においては症状の緩和と同じように体力と全体的身体機能の向上効果に焦点を当てるべきである。医師が症状の軽減の理由でサプリメントを処方したとしても、患者が症状の軽減のためと第一義的に受け取らなければ、患者はそれを経験しないし報告しないかもしれない。体力のある患者は症状に抵抗できるかも知れないが、患者はそれを運がいいと考え、主な目的とは考えない。

仙生露や関連製品の有益性が　症状特異的なものよりもむしろ全体的なものにありそうであるなら、研究調査は、健康感(well-being)や全身症状－不安、悲しみ、抑うつ、食欲、体重維持、日常活動、人付き合い、更に脱毛や嘔気、苦痛といった特定の症状－をターゲットに広く調査評価されるべきである。この調査票を更に発展させ、がん患者における仙生露および他の CAM 製品の評価を行うことを期待している。

結　論

がんと表明した仙生露摂取者はその使用による好ましい効果を回答した。我々が作成した調査票は、更に検証されれば、がん患者における仙生露および他の CAM 製品を評価する臨床試験において有用な成果を生み出すものと思われる。

社内研修資料（複写厳禁）

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

謝　辞

本研究は　協和―エス･エス･アイ（東京、日本）により援助された。

参考文献

1．～31．（略）

社内研修資料（複写厳禁）

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

表1　臨床的背景因子　(仙生露摂取者　782 名)

背景因子			症例数(例)	(%)
がん数 (回答より)	(単発がん)	1	632	80.6
	(重複がん)	2	129	16.5
		3以上	21	2.7
原発部位	肺		177	23
	結腸		170	22
	胃		158	20
	肝		127	16
	乳腺		101	13
	前立腺		75	10
	卵巣		40	5
	子宮頸部		29	4
	子宮体部		21	3
	その他の部位ないし器官		62	8
現在の治療	積極的治療なし		292	37.4
	経口化学療法ないし放射線治療単独施行中		181	23.2
	静注化学療法施行中？		307	39.4

社内研修資料 (複写厳禁)

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

表2　仙生露の使用状況

使用状況	症例数	%
どのくらいの期間“仙生露”をお飲み頂いていますか。(中央値:1年以上)		
1ヶ月未満	9	1.2
1～3ヶ月	57	7.3
3～6ヶ月	108	13.9
6ヶ月～1年	172	22.1
1年以上	432	55.5
いつから“仙生露”をお飲み頂いていますか。(中央値:治療開始後)		
がんと診断される以前より	22	2.9
がんと診断された後で、治療(手術、化学療法)以前より	218	28.4
治療(手術、化学療法)を開始以降	266	34.0
治療(手術、化学療法)を終了してから	262	34.1
飲む状況をひとつ選んでください		
毎日(習慣として)飲んでいる	644	84.4
がん治療を受けている間飲んでいる	71	9.3
体調が優れない時や体力･気力が弱っている時に飲んでいる	22	2.9
自分のがんに対して心配になったときに飲んでいる	26	3.4
1週間で平均何袋お飲みですか(中央値:1袋／1日)		
7袋未満(1袋／1日未満)	49	6.4
7袋(1袋／1日)	369	48.4
2袋／1日	195	25.6
3袋／1日	126	16.5
4袋／1日以上	24	3.1

社内研修資料(複写厳禁)

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

表3　仙生露の効果（役に立ったか）

仙生露はどのくらい役に立つと思われますか	仙生露の効果（%）		
	役に立たない	役に立つ	非常に役に立つ
a.がんと闘うための体力を改善することができる	5	70	25
b.がん以外の病気に対して抵抗力がついた	10	74	16
c.がんによる症状を軽減した	10	65	24
d.がんによる副作用を軽減した	12	67	21
e.がん治療に役立った	10	67	24
f.精神症状の改善に役立った	9	66	25
g.がんに対する精神的戦いに役立った	6	62	31

表4　仙生露使用により体感された効果の総括尺度

	がん治療による症状	身体機能的健康度
	項目尺度の相関係数[1]	
食欲	0.50	0.44
体重（維持または増加）	0.53	0.37
体重減少	0.48	0.39
痛み	0.54	0.36
脱毛を減少し発毛を促進した	0.36	0.28
悪心または嘔吐	0.44	0.38
筋力の衰え	0.39	0.51
活力	0.43	0.75
体力	0.44	0.73
緊張感や不安感や	0.38	0.72
悲壮感や憂鬱感	0.43	0.65
日常生活で人付き合いが普通にできる	0.41	0.70
仕事や家周りの家事ができる	0.46	0.75
肉体的健康感の全体的感覚	0.50	0.75
精神的健康感の全体的感覚	0.39	0.70
クロンバッハの信頼係数α	0.74	0.91

1. 項目尺度の相関係数は因子分析に含まれる重複する項目で補正されている。しかし下記の項目はスケールの分別が芳しくないので総括尺度から削除した：寝つきが良い、日中眠気がある

社内研修資料（複写厳禁）

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

表5　患者の背景因子と体感効果尺度のスコア

			治療症状の軽減	検定法(P 値)	身体機能的健康感の改善	検定法(P 値)
(平均スコア)						
全回答者 “効果なし”の%			0.25 26%		0.30 37%	
性別	男		0.23	t	0.25	t
	女		0.28	(0.92)	0.36	(<0.001)
年齢	20－49 歳		0.30	r=－0.03	0.42	r=－0.08
	50－59 歳		0.27	(0.389)	0.29	(0.016)
	60－69 歳		0.23		0.30	
	70 歳以上		0.25		0.26	
がん発生部位	肺、胃、肝		0.23	F	0.28	F
	結腸、乳腺、子宮体部、頸部		0.29	(0.060)	0.35	(0.004)
	前立腺、その他		0.21		0.15	
肺がん		no	0.27	t	0.32	t
		yes	0.20	(0.32)	0.26	(0.190)
胃がん		no	0.25	t	0.29	t
		yes	0.27	(0.379)	0.34	(0.245)
肝がん		no	0.26	t	0.31	t
		yes	0.18	(0.026)	0.23	(0.059)
大腸がん		no	0.24	t	0.29	t
		yes	0.29	(0.074)	0.33	(0.295)
乳がん		no	0.25	t	0.29	t
		yes	0.26	(0.725)	0.36	(0.192)
子宮体がん		no	0.25	t	0.29	t
		yes	0.39	(0.075)	0.50	(0.051)
子宮頸がん		no	0.25	t	0.30	t
		yes	0.26	(0.836)	0.42	(0.159)
前立腺がん		no	0.25	t	0.32	t
		yes	0.21	(0.277)	0.14	(0.002)

社内研修資料（複写厳禁）

BMC
Complementary and Alternative Medicine
http://www.biomedcentral.com/1472-6882/7/32/abstract

(表5の続き)

		治療症状の軽減	検定法(P 値)	身体機能的健康感の改善	検定法(P 値)
(平均スコア)					
仙生露使用期間	3ヶ月以下	0.14*	r(s)=0.07 (0.059)	0.22	r(s)=0.04 (0.251)
	3－6ヶ月	0.24		0.30	
	6－12ヶ月	0.25		0.29	
	12ヶ月超	0.27		0.32	
現在の治療	積極的治療なし	0.24	F 0.640	0.31	F 0.973
	経口化学療法又は放射線療法	0.26		0.30	
	静注化学療法	0.26		0.30	

t : t 検定
F :F 、分散分析
r： ピアソンの相関係数、r(s) ： スペアマンの相関係数
*：本グループの平均は他のグループの平均に比べ 有意 (p<0.05) に低い。他のグループの平均は互いに有意差はない。

(以 上)

社内研修資料 (複写厳禁)